学校だより
清　流
立山町立立山中央小学校
令和８年 10 月

相手を思いやる心

教務主任　宮腰　陽子

１年生から６年生の縦割り班で活動する「なかよし班活動」。これまでは、運動会に向けて２人３脚やムカデ競走の練習を続けてきました。継続して練習してきた成果が、運動会でも表れました。

先日行ったなかよし班活動は、６年生が企画した遊びやゲームを各班で楽しみました。「鬼ごっこ」「だるまさんが転んだ」「絵しりとり」等、様々な遊びで交流する様子が見られました。校内を回って見ていると、１つの班が揉めていました。どうやら、やりたい遊びが決まらないようです。この班は、「大根抜き」という遊びをしようと決まりかけていたのですが、「大根抜き、したくない」と言う低学年のAさん。大根抜きをしたい子供たちとAさんの意見が分かれ、しばらく言い合っていたところ、6年生の班長Bさんが、やさしい口調で、「どうしてしたくないの」とその理由を聞きました。「だって、こんなきたない床に寝ころんだら汚れるもん」と言うA児に、班長は、「じゃあ、一緒に抜く役になろう。そうすれば寝転がらなくていいよ」と提案すると、Aさんは納得して遊びに参加しました。先ほどまでの重い空気とは打って変わり、笑い声が響き、楽しく遊ぶ子供たち。Aさんも「よおし、絶対大根を抜くぞ」と意気込んで何度も挑戦していました。１回目が終わったら、Aさんは、「あー楽しかった。もう１回やろう。今度は抜く役じゃなくて、大根になる！」と言い、２回目が始まりました。床に転がることを嫌がっていたことなんてすっかり忘れ、笑いながら楽しむAさんと、Aさんの気持ちをやさしく受け止め、みんなの気持ちを大切にしようとするBさん、そして、学年の枠を越えて仲よく遊ぶみんなを見て、心が温かくなりました。班長のBさんは、遊びの途中も、靴が脱げた子を見付けては声をかけたり、ルールをもう１度確認してみんなに伝えたりするなど、全体の様子を気にかけ、進んで行動していました。相手の気持ちに寄り添って、みんなが楽しめるようにやさしく支えるＢさんの姿に、リーダーとしての頼もしさと相手を思いやる心の大切さを感じました。

「相手を思いやる心」は、人間関係を円滑にする上で欠かせないことです。しかし、伝え方次第でおせっかいになったり、かえってトラブルに繋がったりすることもあります。相手の立場やタイミングを尊重しつつ、必要なときにそっと支えることの大切さを今回のＢさんの姿から改めて感じました。